

コンビニ経営とロータリーの職業奉仕

私はコンビニエンスストアを経営しておりますが、日々の店舗運営の中で、地域の子どもたちや高齢者の方々に安心して利用していただくことこそ、職業奉仕の実践であると考えています。ロータリー精神である「超我の奉仕」は、特別な事業を立ち上げることだけでなく、職場での一つひとつの振る舞いの中にも表すことができると実感しています。

まず子どもたちへの取り組みです。当店は通学路沿いにあり、小学生や中高生が放課後によく立ち寄ります。私はスタッフに「ただの接客ではなく、地域の大人として子どもを見守る姿勢」を常に心がけるよう伝えています。例えば元気がない様子の子どもに声をかけたり、不審な人物が近くにいれば学校や保護者へ連絡したりと、見守りの役割を果たしています。

また、万が一危険を感じた時には店内を駆け込み場所として活用してもらえよう、子どもたちにも声をかけています。これにより、保護者の方々から「この店があることで安心できる」と感謝の言葉をいただくことも増えました。コンビニという身近な場が、子どもたちの安全と成長を支える拠点となることは、私にとって大きなやりがいです。

一方で、高齢者のお客様への支援も大切な職業奉仕です。年齢とともに買い物や支払いに不安を感じる方は少なくありません。レジ前で電子マネーの操作に戸惑う方には、スタッフが一緒に手順を説明し、安心して利用できるようにしています。また、商品棚の上段に手が届かない時には、声をかけて代わりに取って差し上げるなど、ちょっとした配慮を大切にしています。ある常連のお客様から、「ここで買い物をすると安心できる。人に優しくしてもらえるのが何よりうれしい」と言われた時、自分の仕事が単なる商売にとどまらず、人の生活を支える奉仕そのものであることを実感しました。

さらに、独居高齢者の方にとっては、コンビニでの会話が一日の大切な交流の場となることもあります。私は「いらっしゃいませ」「ありがとうございました」という形式的な言葉に加え、その日の天気や健康のことなど、ちょっとした会話を心がけています。時には体調が優れない様子を察して声をかけ、必要に応じて地域の見守りネットワークに連携をお願いすることもあります。買い物を通じて築かれる人と人とのつながりは、地域に安心感を広げる力があると感じています。

このように、子どもと高齢者という地域で特に支えを必要とする世代に寄り添うことは、コンビニ経営を通じた私の職業奉仕の柱となっています。店舗は単に商品を売る場ではなく、地域の安全や安心を守る拠点であり、そこに働く一人ひとりの姿勢が奉仕の実践につながります。ロータリーの理念を胸に、これからも「子どもたちが安心して駆け込める場所」、そして「高齢者が笑顔で買い物できる場所」を提供し続けることで、地域社会に貢献していきたいと考えています。